

## 連携機関ご紹介コーナー

### 津田医院

院長 津田 敏孝 Toshitaka Tsuda  
(安芸高田市医師会理事)

昭和58年/久留米大学卒業  
昭和60年/広大第一内科入局後双三中央病院  
平成6年/国立呉病院勤務  
平成19年/広島西医療センター勤務  
平成22年4月/横田診療所所長就任  
平成25年5月/津田医院開院

趣味・リフレッシュ方法  
車・ドライブ



#### 毎日の診療で大切にされていることは何ですか

新しい地域包括ケアシステムを中心に、様々な医療機関・団体と連携して在宅医療を推進していきます。横田診療所の時から今までに21名の看取りを行っています。

#### 自院のやりがいは何ですか

家族・患者様本人の希望に基づく在宅医療の推進。

#### これからの地域医療に思うことについて

在宅医療の充実とがん緩和ケアの促進のために、連携ネットワークを構築し合理化・省力化を図っていきます。

#### 吉田総合病院への要望について

地域包括ケア病棟を上手に活用して、在宅で弱った方を元気にして、また在宅で最期まで暮らせる地域づくりのご協力をお願いしたいと思います。



故津田秀雄院長



#### 津田医院

住 所 安芸高田市美土里町本郷1781-9  
開 院 平成25年5月  
標 榜 科 内科・胃腸内科



## 第41回 院内学会開催報告

日時/平成28年2月25日(木) 17:40~ 会場/JA吉田総合病院 南館4階大会議室  
院内学会を開催しました。

### 医療安全管理室より

#### ①虐待に対する対応と連絡体制の構築

虐待のニュースをよく耳にする世の中であるが、当院でも虐待を受けた患者様が来院されている。「虐待の通告義務、早期発見」に対して病院の役割を果たすことを目的に、当院と安芸高田警察署、安芸高田市が連携し、協力体制を構築した。2事例を交えながら、地域全体で虐待防止に取り組む重要性を伝えた。

### 臨床研究検査科より

#### ②当院で経験した重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 1症例の検査データ報告

マダニにより感染する重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) について、症例を経験して農業従事者の受診が多い当院では、来院後の早期診断のために、血液データ・発熱等も考慮し診療に役立てたい。

以上、4題の発表があり各スタッフ間の情報共有に努めました。次回は9月に開催いたします。安芸高田市の医師会・歯科医師会の皆様もお気軽にご参加・ご発表をお待ちしております。

### JA吉田総合病院ICTより

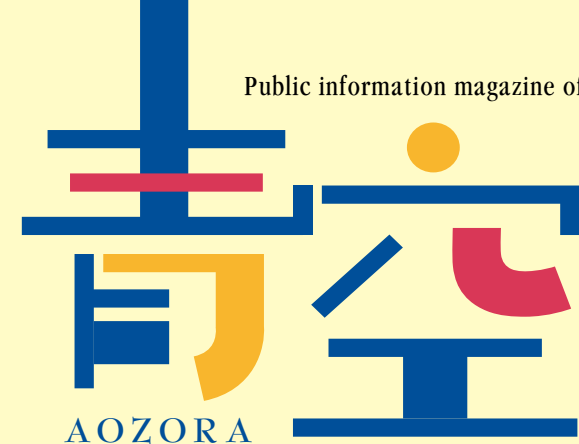
#### ③血液培養検査推進活動と血培陽性患者に対するICTの取り組み

ICT(感染対策委員会)にて、適切な抗菌薬使用のために、血液培養検査を促進した。院内勉強会等を開催して、検査の有用性を訴え今後も治療に活用していくことを伝えた。

### 3階病棟より

#### ④地域包括ケア病棟開設への取り組みと現状

平成27年12月より地域包括ケア病棟を開設した。開設から今までの状況を説明し、安芸高田市の地域包括ケアシステム構築のために、在宅復帰へ困難事例を基にスタッフの取り組みを伝えた。



やさしい心で  
良質な医療を。

早春号

vol. 49



発行/広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院  
〒731-0595 広島県安芸高田市吉田町吉田3666  
Tel.0826-42-0636 Fax.0826-47-0007  
2016年(平成28年)3月発行  
http://yoshida-gene-hospi.jp/

Facebookを開きました



### ご紹介

## 居宅介護支援事業所

介護支援専門員(管理者) 矢田 ゆかり



### 介護保険制度について

平成12年(2000年)4月、『高齢者の介護を社会全体で支えあう仕組み』として介護保険制度がスタートしました。40歳以上の方は、加入者(被保険者)となって保険料を納め、介護が必要になった時、費用の一部(1割~2割)を負担し、サービス利用できる制度です。

### 居宅介護支援事業所とは?

居宅において要介護認定を受けられた方に対し、介護支援専門員(ケアマネジャー)が、その方の現状に応じて適切な介護サービスを利用するための計画(ケアプラン)を作成し、サービス事業所と連絡、調整をします。

### 介護サービスを受けるには?

まず、介護認定を受ける必要があります。

#### ●対象となるのは…

第1号被保険者(65歳以上の方)…介護や日常生活の支援が必要に

なった方

第2号被保険者(40歳~64歳までの方)…国が定めた16種類の特定疾病により介護や支援が必要となった方

#### ●介護認定を受けるには…

- ① 認定の申請(市役所高齢者福祉課、もしくは最寄の支所など)
- ② 認定調査・主治医意見書
- ③ 審査判定…一次判定(コンピューター判定)→二次判定(介護認定審査会)
- ④ 認定…要介護1~要介護5、要支援1~要支援2

\*いずれかの認定を受けた方が、介護(予防)サービスを受けることができます。

#### ●介護サービスを受けるには…

- ① サービス計画(ケアプラン)作成のための届出を市役所(支所)に行い、居宅介護支援事業所を決定します。(自分で作成する方法もあります)
- ② 担当ケアマネジャーが自宅を訪問し、生活状況やサービスに対する意向などを伺います。
- ③ ケアマネジャーがケアプランを作成。
- ④ ご本人、ご家族、担当するサービス事業者が集い、計画や在宅での生活に

ついて打ち合わせや確認を行います。(担当者会議の実施)

⑤ 介護サービス(自宅に訪問してもらい利用するサービス、施設に通って利用するサービス、短期間入所して利用するサービス、生活環境を整えるサービスなど)開始

⑥ 定期的にケアマネジャーがご自宅に訪問し、サービス利用状況やご本人の状況などを確認します。



### JA吉田総合病院 居宅介護支援事業所

当事業所は平成12年の制度開始と同時に設立、事業を開始しました。現在3人のケアマネジャーが勤務し、安芸高田市内全域を担当地域としています。院内に限らず、地域のかかりつけの先生や各サービス事業所など医療と介護が円滑に連携できるよう努めています。心身や生活に不自由なことが起きてからも、自分らしく生活するにはどうしたら良いかを一緒に考え、係らせて頂けたらと思います。

#### 基本理念

1. 私たちは何人にも平等に医療を提供します。
2. 私たちは地域の基幹病院として、最良の医療を提供します。
3. 私たちは納得と同意のもとに信頼される医療を提供します。

#### 基本方針

1. やさしい心で安全・良質な医療・保健・福祉サービスを提供します。
2. 医療を受ける人びとの人格、権利を尊重し、全ての人に貢献します。
3. 生涯学習の精神を保ち、知識と技術の習得に努めるとともに、医療の質向上に尽くします。
4. 努力と強調で健全経営に努め、明るい職場をつくります。
5. 病院の公共性を重んじ、事業を通じて地域に尽くすとともに、法規を遵守します。



## 医療・介護・福祉関係者のための研修会を開催しました 「難病の基礎を学ぶ～ALSを中心に～」

開催日 平成28年2月20日(土) 13時30分～

先日、広島大学脳神経内科 診療講師 難病対策センター事務局長 越智一秀先生を講師に迎え、「難病の基礎を学ぶ～ALSを中心に～」と題し、ご講演をいただきました。当院職員の他、安芸高田市内の医療・介護・福祉に従事されている方51名が参加しました。

当院では、難病患者様への対応について、もっと専門的な知識と患者様・ご家族への寄り添いの必要性を職員が強く感じ、今回の研修会を開催する運びとなりました。研修会では、難病の特徴・進行具合・障害への対処・コミュニケーション手段・治療方針等幅広くご教示いただきました。



講演後の質疑応答では、実際に患者様に接した時の苦悩や、患者様の尊厳とご家族の負担軽減に役立つ質問が多くありました。

今後も在宅療養支援と医療・介護・福

祉の連携を進めるために、色々な課題について皆様と一緒に考え、取り組んでいきたいと思ひます。



### 筋萎縮性側索硬化症(ALS) つてなに?

運動神経(大脳からの運動の命令を筋肉まで伝える神経)が選択的に障害され、運動神経以外(感覚神経や自律神経、脳の高度な機能)はほとんど障害されない進行性の神経変性疾患を、総合的に運動ニューロン疾患(MND)といいます。

代表的なのが筋萎縮性側索硬化症(ALS)というまれな疾患で、特定疾患に指定されています。多くは孤発性ですが、一部は家族内発症がみられます。

(Yahoo!ヘルスケアより)

## JA介護職員研修会を開催しました

みんなで料理を  
作りました!(調理実習)



JA 介護職員の皆様を対象に、冬場に元気の出る献立の調理実習研修会を2月17日(水)にクリスタルアージュ調理室にて開催しました。

当日は、当院の栄養科長補佐 白川紗月氏の講師により、「少量でもカロリー、水分たっぷり、バランスを考えた冬の献立」をテーマに、高齢者に不足しがちな「たんぱく質」・エネルギーの源「炭水化物」・果物等の「ビタミン」・乳製品の「カルシウム」をバランス良く摂り、冬場、身体を温める食事を作りました。献立は、大根や里芋等の根野菜を多く取り入れた「だんご汁」、身体を温める生姜やゴマを混ぜた「生姜ごはん」、魚介類と野菜、キノコを使った

「タラの野菜あんかけ」「海鮮茶碗蒸し」、くだもの・

ヨーグルト・生クリームを組み合わせた「フルーツヨーグルトクリームかけ」の5品を作りました。

さすが日頃から作り慣れておられ、手際よく分担して作られました。参加者からは、いつもは使わない食材・調理方法を学ぶことができ、レポーターが増えたと感想がありました。

作った後はみんなで試食し日頃の業務について語り合い親睦を深めました。



第3回

## 多職種合同研修会 ～「食べることは生きること」PartII～

日時 平成28年 3月3日(木) 18:00～



テーマを  
「食べることは生きること」PartIIとし  
多職種合同研修会を開催しました。

安芸高田市内の医療・介護・福祉従事者の方、67名のご参加がありました。

まず、当院の住元一夫病院長の挨拶で開会し、「劇団安芸☆高田 女子会」による寸劇を交えな



がら、①「生きるためになぜ口腔ケアが必要か?」と題した吉村 歯科医院院長 吉村直規氏による講演の中で、お口の中を清潔に保つ事が色々な病気の予防になる事や在宅で暮らす

方の健康を守るためにできる事を学びました。②「食べたい想いに応えるために～施設・地域活動を通して～」と題した、医療法人社団平岡医院 管理栄養士 常貞冴子氏による講演では、患者さんの口から食べたい想いに応えるための食事加工

の工夫と、管理栄養士が施設・地域活動での使命を事例にて紹介されました。最後に、③「嚥下検査から見えること」と題し、当院リハビリテーション科 言語聴覚士 隅田勲恵氏による講演がありました。食べた時の食物の流れについて内視鏡画像を見ながら、嚥下のプロセスを説明し、食べる時の姿



の工夫と、管理栄養士が施設・地域活動での使命を事例にて紹介されました。最後に、③「嚥下検査から見えること」と題し、当院リハビリテーション科 言語聴覚士 隅田勲恵氏による講演がありました。食べた時の食物の流れについて内視鏡画像を見ながら、嚥下のプロセスを説明し、食べる時の姿

の工夫と、管理栄養士が施設・地域活動での使命を事例にて紹介されました。最後に、③「嚥下検査から見えること」と題し、当院リハビリテーション科 言語聴覚士 隅田勲恵氏による講演がありました。食べた時の食物の流れについて内視鏡画像を見ながら、嚥下のプロセスを説明し、食べる時の姿

勢・嚥下能力にあった食物・1回量について説明しました。また、食べられなくなった時のご本人・ご家族の気持ちを先に確認しておくことが大事であると伝えました。



最後時間がなくなりグループワークが出来ませんでした。本日の学びを各事業所に持ち帰り職員で共有してもらおうことをお願いして、津田医院院長 津田敏孝氏の挨拶をもって閉会しました。

開催後のアンケートでは、「歯科医師・管理栄養士・言語聴覚士さんからの専門的な立場からアプローチされていることが理解できた。食べることは生きていくことなので、お話を聴くことができ、看護の現場に活かしていこうと思った」等のご意見がありました。



### INFORMATION お知らせ

～安芸高田市歯科医師会からのお知らせ～

歯科医院へ行くのが困難な方へ  
お口の中は大丈夫ですか?

安芸高田市歯科医師会は、広島県からの委託を受け、在宅歯科医療連携室を設置しました。歯科医院へ行くことが困難な方に、「口腔ケア・訪問診療」をする歯科医院をご紹介します。

右記、お申込み先にてご相談のりますので、お気軽にご連絡ください。

お申込み先/安芸高田市歯科医師会 在宅歯科医療連携室 事務局  
FAX.0826-43-2075 TEL.090-7507-1690



お口の健康は  
全身の健康、  
認知症予防に  
つながります。